

「いよいよね
準備はいいかしら。エ○デルガルト

「ちよつと待ってシ○ズ、何で貴女こんなモノを……?
それにこの大きさ、普通じゃないわ……っ!

そんな事はどうでもいいじゃない
とにかくこれで私達は結ばれるのよ

そ、それは…嬉しいけど…
いくら何でもこれは無茶よ…っ!

大丈夫、始めは手加減するから♡

そういう問題じゃないわ…っ!

それじゃあ、入れるわよ♡」



「うっ！ぐううううっ！
大きすぎっ…！ぐっ…く、苦しいっ…！

「素敵よ♥これがエ○デルガルトのオマ○コ…
私のデカチ○ポが奥までしっかり入ったわ♥

おチ

グ
グ
グ
グ

ホ
コ
オ

シ○のズチ○ポオ…入っってくるうっ…♥
オマ○コ壊れちゃうううっ…♥
エ○デルガルトなら大丈夫
私の愛をその身で受け止めて♥



「あっ♡ああっ♡ズンズン来るう…っ♡
うう…ああっ♡それ以上は無理い…っ♡

「そんな事言われたって、エ○デルガルトの中
気持ち良くて…欲望を抑えられないの…♡
もう少しでイクから…我慢して…♡」

…イク？私の中でいつっちゃうの？
こんなデカいのが射精なんてしたら…
うっ♡ううっ♡私、どうなっちゃうの…？」



「良い眺めだわ♡
私のチ○ポで犯される姿…
とても素敵よ…♡

「シ○ズ…お願い…

もう少し、ゆっくり…っ

そうね、ごめんなさい

あんっ♡

チ○ポ凄いい…♡

ああ…駄目え…♡

ちよっ…

そんな可愛い声

出さないでっ…

そんな声出されたら

我慢出来なくなるっ♡

ああっ♡

ゆっくりって言ったのになっ♡

んっ♡あっ♡ああっ…♡

そんな激しくしないでえっ…♡



アッ♡

アッ♡

アッ♡

アッ♡

「精子上がって来たっ…そろそろだわ…
私の愛…全部送るから…っ♡

「そ、そんな…待ってっ

もう限界なのに…

射精までされたらっ…

大丈夫

一緒にいきましよう…♡

無理…死んじゃう…

私、絶頂して

死んじゃうわ…♡

弱音を吐くなんて

らしくないわよ♡

ああ…イク♡

チ○ポイクわ…♡

エ○デルガルトの中に

ぶちまけるわっ…♡」

駄目っ♡

本当に駄目よっ…♡」



「んはっ♡イクツ♡
エ○デルガルトの子宮に
ザーメンビュルビュル出るうっ♡」

ビュル



ビュル

ルル

ビュル

ビュル
ビュル
ビュル

「んあっ♡しゅごいいっ♡
シ○ズのチ○ポザーメン
しゅごい来るのおっ♡
イクウウウツ♡
ボテ腹絶頂しちやううっ♡」

ボクッ



あはっ♡



「はああ…♡
今日の為に溜め込んだザーメン
全部出し尽くしたわあ…♡

おっ♡

おっ♡

愛する

エ○デルガルトの中に…

ああ…幸せ…♡

「わ、私も…♡

愛するシ○ズに

中出しキメてもらって…

最高に幸せよ…♡」

二人仲良く幸せ絶頂

出来たわね…♡」



「私達、やっと結ばれたのね♡
これからもずっと一緒よ♡
エ○デルガルト…♡

「ええ、この先
どんな事があるろうと
二人の愛の契りは
決して破る事は
ないわ…♡

だから、今ここで
誓って…

貴女のチ○ポは
私だけのもので
あると…♡

誓うわ…

私のチ○ポは
エ○デルガルト
だけのもの…♡」

ありがとう、シ○ズ…♡」













